

▼イプリフラボン錠 [内] <2023.3 製造中止>

【重要度】 【一般製剤名】イプリフラボン Ipriflavone 【分類】骨粗鬆症治療剤
【単位】▼200mg/錠
【常用量】600mg/日
【用法】分3
【透析患者への投与方法】減量の必要ないが、胃障害に注意 (5)
【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要ないが、胃障害に注意 (5)
【特徴】直接的な骨吸収抑制作用、及びエストロゲンのカルシトニン分泌促進作用を増強することによる骨吸収抑制作用により骨粗鬆症における疼痛を軽減し、骨塩減少を抑制。
【主な副作用・毒性】消化性潰瘍、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、下痢、胸やけ、口内炎、味覚異常など
【F】27.2% [ラット] (1)
【tmax】1.3hr (1)
【代謝】肝臓において脱イソプロピル化、イソプロピル基の酸化及びフェニル基の水酸化によりほぼ完全に代謝され、M-I, II, III, IV, VI, VII がグルクロン酸又は硫酸との抱合反応を受ける [ラット, イヌ] (1) 代謝経路は CYP1A1/2, 2C11 が関与 [ラット] (1) M-I は未変化体と同程度の活性を示すが他は弱い活性はない (1)
【排泄】尿中回収率 42.9% [48hr まで] で未変化体は認められない (1) M-I の回収率は 7.6% (48hr まで) (1) 【CL】59.6±8.01mL/min/kg [ラット] (1)
【t1/2】9.8hr (1)
【蛋白結合率】97~99% (1)
【Vd/F】未変化体 1478±2047L/man, M-I 17.02±9.19L/man (1)
【MW】280.32
【透析性】蛋白結合率が高いため透析で除去されにくいと思われる (5) HD 前後の濃度低下率は未変化体 37%, M-I 12.4% (1) であるが、リバウンドを考慮しているか不明 (5)
【TDM のポイント】TDM の対象にはならない【O/W 係数】999 以上 [酢酸エチル系 pH7] (1)
【相互作用】テオフィリンの血中濃度上昇 (1)
【更新日】20220628

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。